

# 民主化闘争情報

No. 1010

2018年10月16日

発行 日本鉄道労働組合連合会

(JR連合)

JR連合は、10月10日、田町交通ビルにて「JR産業の発展にむけ民主的な労働組合・労使関係を築く総決起集会」を開催した。JR連合、各単組および来賓等の総勢300人が結集し、JR産業のすべての労使において、民主的な労働組合と、健全で建設的な労使関係を構築すべく、JR連合の全単組が総決起することを確認した。

内外のすべての関係者に訴える！

## JR産業の発展にむけ、すべての労使において 民主的労働組合・労使関係を築こう！

JR東労組の組織瓦解によって、JR東日本には当初からの数を含めると約3万7千人という組合未加入者が発生している。JR連合・JREユニオンは着実に組織拡大をしているものの、未加入者らを労働組合化するという大きな動きはない。一方、JR北海道やJR貨物においては未だ民主化の動きも見られない。JR連合は、組織の強化・拡大と民主化に弾みを付けていくためのひとつの契機とすべく、本集会を開催した。

主催者を代表して挨拶に立ったJR連合の松岡裕次会長は、「1999年の民主化闘争宣言を機にはじまったJR労働界の民主化の取り組みの成果もあり、今日のJR東労組の瓦解が起こった。今やJR東日本では、未加入者が全体の6割を超える最大勢力になり、同社内の労働界の勢力は、従来の三極構造から四極構造となっている。あるべき労働組合像・労使関係像を掲げ、民主化闘争の完遂にむけてJR連合が先頭に立って奮闘する」とJR連合が総団結して運動を展開することを力強く要請した。

続いて、中山耕介組織・政治部長から現在の情勢報告を行うとともに、JR連合の取り組みとして、労働組合の必要性と健全で建設的な労使関係の構築の必要性について提起した。その後、ノンフィクションライターの西岡研介氏からは、「世の中の17%の労働組合組織率を踏まえると、いかにして労働組合の必要性を訴えていくのか、これまでと違ったアプローチも必要である」との見解と、「過激な運動が影を潜める中、彼らの異常性を表に引きずり出すような運動を展開することを求める」との激励をいただいた。

JR各単組の7名の代表者による決意表明では、民主化3単組と支援4単組が、自らの経験や歴史から得た教訓等を交えて熱く、JR産業における労働組合の存在意義や必要性を訴えた。最後に、集会アピールが読み上げられ、満場の拍手で採択し、松岡会長の団結ガンバロウで総決起集会を締めくくった。

なお、集会翌日には、JR7単組で総勢160名が参加して、朝の通勤時間帯に、JR東日本の東京支社・東京総合車両センター・横浜支社・大宮支社、JR貨物の隅田川駅・東京貨物ターミナルで、昼休み時間帯には霞ヶ関国交省近くの計8カ所に分かれて街頭ビラ配付行動を行い、JR労使に民主的労働組合と健全で建設的な労使関係の構築の必要性を訴えた。

**JR産業を取り巻く環境が大きく変化していく今こそ、  
真に自由で民主的な、建設的な運動を行う  
真っ当な「労働組合」「労使関係」が必要不可欠！**